

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①山本寛著『なぜ、御社は若手が辞めるのか』日本経済新聞出版社 (227頁, 新書判)</p> <p>近年、転職者が300万人を突破し、右肩上がりが増えるなか、わが国は本格的な転職社会に突入している。その反面、少子高齢化が進み、企業は恒常的な採用難、人手不足というのが現状。こうした企業では、採用した若手社員に長く働き続けてもらう「リテンション」(定着・引き留め)の促進が喫緊の課題となっている。転職した労働者に辞めた「本音の理由」をたずねたところ、「労働時間・環境に不満」「人間関係」「給与」の順に続いた。今後若手を辞めさせないための施策としては、労使ともに「希望を活かした部署への配置」を重視するものの、労働者が次に求めるのは「賃金水準の向上」「休日の確保」であるのに対し、企業側は「企業内訓練」を挙げるなどズレも目立った。</p>	<p>③イリス・ボネット著『ワークデザイン』NTT出版 (435頁, 四六判)</p> <p>米ハーバード大学で女性行動経済学者として教鞭をとる著者が、男女平等を実現するためには何が有効かを解く。事例としてあげたのは、米国のオーケストラにおける演奏家の採用試験のエピソード。試験で「ブラインド・オーディション」が実施される前は女性演奏家の割合が5%だったのが、実施後は35%以上になったことを紹介。女性の社会進出が進んだ米国でもこの結果だ。われわれの頭のなかには様々なバイアス(偏り)が無意識のうちに行動に影響を与えているが、取り除くのは非常に難しい。著者は「慣行とプロセスを変える」「交渉の機会を等しく確保する」「能力を磨く」「等しい条件で競い合う」などをジェンダー平等のためのデザインとして男女に呼びかける。</p>
<p>②小谷敏著『怠ける権利!』高文研 (350頁, 四六判)</p> <p>「過労死」という言葉が生まれてから、すでに四半世紀以上が経過した。しかし、依然としてわが国では過労死は解消されていない。こうしたなか、著者は怠惰を称揚する。書名は、19世紀フランスの社会主義者ポール・ラファルグに由来。彼は当時の労働者階級が10時間をはるかに超える過酷な労働環境をしている際に、「1日3時間以上働く人間は不幸になる」と説き、過剰労働による過剰生産を批判したという。本書は「死に至るまでの労働を人々に強いる、日本の社会構造と人々の価値観の歪みはなぜ生まれたのか」をラファルグ、ケインズ、ラッセル、ヴェブレン、水木しげるらの思想をひもときながら、過労死を生み出す「自発的隷従」を克服する“処方箋”を提示する。</p>	<p>④中村高康著『暴走する能力主義』筑摩書房 (237+v頁, 新書判)</p> <p>ことし、高等学校の学習指導要領が改訂された。新しい時代に身につけるべき「能力」が想定され、教育内容が大きく変更されている。本書は、その背景に教育の大衆化という事態があると指摘。大学教育が普及することによって、逆に学歴や学力といった従来型の能力指標の正当性が失われ始めたことが影響しているという。その反面、人々は「新しい能力」を渴望し、例えば他者とのコミュニケーション能力や協調性、問題解決能力など抽象的能力を求めがちだ。当然これらは厳密には測定できない。このため、これまで抑制されていた能力への疑問が噴出し、「能力不安」があらわれるようになった。本書では、気鋭の教育社会学者が能力のあり方の揺らぐ現代社会を分析した。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2018年8月—9月労働図書館受け入れ)

- | | |
|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| ⑥田原総一郎著『A で私の仕事はなくなりますか?』講談社 (221頁, B6判) | ⑩神崎敏彦著『エンプロイアビリティ』風詠社 (228頁, 四六判) |
| ⑦立石泰則著『戦争体験と経営者』岩波書店 (viii+179頁, 新書判) | ⑪大沢真知子著『21世紀の女性と仕事』左右社 (233頁, 四六判) |
| ⑧各務晶久著『メールに使われる上司、エクセルで潰れる部下』朝日新聞出版 (202頁, 新書判) | ⑫渡辺美枝子著『キャリアの心理学』ナカニシヤ出版 (x+248頁, A5判) |
| ⑨川嶋英明著『働き方改革法』の実務』日本法令 (405頁, A5判) | ⑬三具淳子著『妻の就労で夫婦関係はいかに変化するか』ミネルヴァ書房 (iii+248頁, A5判) |
| ⑩今野晴貴著『ブラック企業から身を守る!』イースト・プレス (169頁, 四六判) | ⑭柞刈湯葉著『未来職安』双葉社 (268頁, 四六判) |

労働図書館 <https://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書122,617冊、洋書31,228冊、和洋の製本雑誌26,328冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(264種)、洋雑誌(142種)、紀要(509種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

